

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	教授 後 藤 敏 文	3	火	3
◆ 講義題目	ヴェーダ文献のことばと思想「リグヴェーダからブラーフマナへ」				
◆ 到達目標	インド最古の宗教文献群 Veda に見られる当時の「世界理解の学」を原テキストに即して正確に把握すべく努める。神々と人間との関係、死後の問題、「輪廻」と「業」の出発点などを確認し、合わせて、我々の知識の源泉について、批判的考察の契機とする。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の『リグヴェーダ』(B.C. 1200頃編集)から「ブラーフマナ」と呼ばれる祭式文献群(B.C. 600頃に懸けて順次成立)までを対象に解説する。原資料の姿を知ってもらえるよう、翻訳例を用意する：1 インド学、インド哲学・文献学、「南アジア」；2 インダス文明と「インド」；3-4 アーリヤ人とその言語文化の背景、インドヨーロッパ語族；5 リグヴェーダ「天地の歌」解説；6 インドラ讃歌解説；7-8 DevaとAsura、ヴァルウナ讃歌解説；9-10 創造讃歌、ブルシャ(「人」)の歌；11 アタルヴァヴェーダ紹介と解説；12 ヤジュルヴェーダ・サンヒターとヴェーダ祭式、ヴェーダ文献群の構成；13 ブラーフマナ文献の祭式解釈学；14-15 ブラーフマナの神話。</p>				
◇ 成績評価の方法	配布コピーに基づいてレポートを提出してもらい、これによって成績をつける(100%)。詳しくは参考文献一覧とともに授業中に指示する。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。				
その他：既成の概説書にない内容が中心となるので、授業内容と配布資料とに基づきレポートを提出すること。受講歓迎。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 概 論	2	准教授 吉 水 清 孝	4	水	3
◆ 講義題目	インド哲学とヒンドゥー教				
◆ 到達目標	マウルヤ王朝成立からイスラーム教徒による北インド支配までの、ほぼ1500年間に渡る時代のインド思想史のあらましを、バラモン教学・仏教哲学・ヒンドゥー教の三つを軸にして理解すること。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>各学派における存在と認識、および倫理と宗教の面での中心思想を、学派相互の影響関係と共に以下の順序で解説する。01時代背景の変遷：古代から中世へ；02ヒンドゥー法典：バラモンによる初期中世インド社会の規範；03反バラモン思想としての仏教教理；04バラモン教学(1)：二元論(サーンクヤ)と医学(アーユルヴェーダ)；05バラモン教学(2)：言語の構成要素(文法学)；06バラモン教学(3)：語の認識から文の認識へ(文法学・ミーマーンサー)；07バラモン教学(4)：聖典論と倫理(ミーマーンサー)；08バラモン教学(5)：ウパニシャッド解釈学と一元論(ヴェーダーンタ)；09-10仏教知識論：認識論と論理学；11ヒンドゥー教(1)：ヴィシュヌ神とその化身；12ヒンドゥー教(2)：シヴァ神と女神たち；13-15：ヒンドゥー教(3)：ヴィシュヌ教とシヴァ教の神学。</p>				
◇ 成績評価の方法	(○)筆記試験[70%]・(○)出席[30%]				
◇ 教科書・参考書	既存のインド哲学史とは進め方をやや異にするので、教科書は用いない。講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと、参考書は授業中に指示する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 基 礎 演 習	2	准教授 吉 水 清 孝	3	水	4
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献入門				
◆ 到達目標	サンスクリット語によるヒンドゥー教の基本文献を読むことにより、初等文法で学んだサンスクリット語の活用と構文に習熟すると共に、デーヴァナーガリー文字と宗教文献の語彙を習得し、さらにヒンドゥー教の基本的思考法を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Bhagavadgītā (『神の歌』岩波文庫に和訳あり) は、ヴィシュヌ神の化身であるクリシュナと人間アルジュナとの対話篇であり、現代においてもヒンドゥー教徒の代表的な聖典である。今学期はその第4章及び第5章を中心に講読をする。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。語彙の習得と講読範囲の文脈を振り返ることを兼ねて、学期末に抜粋部分の和訳試験を行う。</p>				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 (講読した範囲からの抜粋の和訳) [50%] ・ (○) 授業での貢献度 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
パ ー リ 語	2	教授 後 藤 敏 文	3	水	5
◆ 講義題目	パーリ語入門				
◆ 到達目標	サンスクリットの知識を基にパーリ語文献の研究に必要な能力を身につける。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>サンスクリット文法を基に、パーリ語への歴史的変化に注目しながら、基本事項を学ぶ。Geiger, A Pali Grammar を参考にする。その後、Anderson, A Pali Reader を用い、具体的テキストに即して、文法事項を確認しながら原典を読む。必要な参考書、研究文献をその都度確認しながら、合理的な訓練に努める。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方とによる。				
◇ 教科書・参考書	Geiger - Norman, A Pali Grammar (共同購入する), D. Anderson, A Pali Reader (大学に必要部数が揃っているが、自分で持っても後まで役立つ)。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する				
その他： サンスクリット語の初等知識を前提とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
チベット語	2	教授 桜井宗信	4	木	2
<p>◆ 講義題目 古典チベット語初級文法Ⅱ</p> <p>◆ 到達目標 古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 チベット人学僧 Tāranātha の著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。第9章冒頭から読み始める予定。 「歯応えのある」文章を相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた十分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70 %] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30 %]</p> <p>◇ 教科書・参考書 Taranatha : 『インド仏教史』 (コピーを配布する)</p> <p>その他 : 「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。また使用すべき辞書については授業の中で紹介する。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
インド学各論	2	非常勤講師 永ノ尾 信 悟	集 中 (5)		
<p>◆ 講義題目 ヒンドゥー教儀礼研究</p> <p>◆ 到達目標 厭世的な世界観を背景として、解脱を求めるさまざまな営みを中心にインドの思想は語られてきた。この世の生の苦しみに対処するいまひとつ異なる流れがインドにあった。それが儀礼の流れである。紀元前後のころから多分記録されたと考えるポスト・ヴェーダ期の儀礼の変遷を中心に、この世のしあわせを求める人々の営みの実際を紹介し、インドの文化史の別な一面についての知識を得ることを目標とする。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 ポスト・ヴェーダ期のヒンドゥー儀礼の伝統がヴェーダ期の祭式儀礼の体系と根本的に異なることを理解するために、まずヴェーダ期の祭式儀礼を1時間概観する。ついで、朝夕の勤行を例に、ヴェーダ期とポスト・ヴェーダ期の儀礼の変遷をみる。ポスト・ヴェーダ期の儀礼要素として重要なプージャーと護摩の形成をたどり、体系としてヒンドゥー儀礼を構成する、年中儀礼と聖地巡礼のシステムの展開を考える。ヒンドゥー儀礼の顕著な例を数例紹介し、最後にプシュヤの星宿に王が行う沐浴儀礼 (puṣyasnāna) の Atharvavedapariziṣṭa, Bṛhatsaṃhitā, Devīpurāṇa の当該箇所を講読することで、ヒンドゥー儀礼の変容の実際を理解してもらう。</p> <p>◇ 成績評価の方法 サンスクリット文法の既習者は授業での貢献度100%、未修者は出席50%レポート50%</p> <p>◇ 教科書・参考書 必要な資料は時間毎に配布する。</p> <p>その他 :</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授 桜井宗信	5	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を通じてインドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・() リポート [%]・(○) 出席 [70 %] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30 %]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp. 1 -37				
その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 各 論	2	教授 桜井宗信	6	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	前セメスターに引き続き bSod nams rtse mo の『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を行い、インド・チベット密教に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。				
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%]・() リポート [%]・(○) 出席 [70 %] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30 %]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊), pp. 1 -37				
その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 後藤敏文	5	月	4
◆ 講義題目	サンスクリット文学選				
◆ 到達目標	サンスクリット文学に関する文献学的・言語的訓練を行う。思想史的背景への理解にも努める。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>バルトリハリに帰せられる三百詩選中「離欲百詩」を題材とする。Kosambi の批判版に基づき、第148詩から読む。毎回出席者全員に訳してもらおう。合理的に予習と復習とを心がけること。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方による。				
◇ 教科書・参考書	Kosambi 批判版（1948再版2000）を基礎とし、Kosambi 1959年版（ガラサーラガニ注付、再版2002）等を参考にする。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	教授 後藤敏文	6	月	4
◆ 講義題目	ブラーフマナ選「祭主の章」				
◆ 到達目標	文法事項（活用、派生法、シンタクス）を点検しつつ、古インドアーリヤ語の習得に努める。祭式を巡るインド思想史の展開にも留意し、基礎知識を学ぶ。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の散文文献であるヤジュルヴェーダ・サンヒターから、祭主の章を取り上げる。前年度までのMS、KSに続き、TSを扱い、「ブラーフマナ」やシュラウタストラにおける祭主の役割への言及へと進む。古インドアーリヤ語散文文献に関する研究能力を養い、祭火を巡る思弁を中心に、祭式の意義付けの展開を追う。毎回出席者全員に順番に訳してもらおう。予習が十分できない場合にも出席してノートを取り、復習に時間を懸けること。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業において示される能力と取り組み方を基準とする。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。Delbrück、Mayrhofer を座右に置くこと。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	5	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進めるというインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%] ・ <input type="checkbox"/> リポート [%] ・ <input type="checkbox"/> 出席 [70 %] <input type="checkbox"/> その他（授業中に示される理解度） [30 %]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1 Y.Ejima, 山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 演 習	2	教授 桜井宗信	6	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進めるというインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%] ・ <input type="checkbox"/> リポート [%] ・ <input type="checkbox"/> 出席 [70 %] <input type="checkbox"/> その他（授業中に示される理解度） [30 %]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1 Y.Ejima, 山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真諦訳）。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	准教授 吉水清孝	5	火	1
◆ 講義題目	ヒンドゥー教神話文献講読				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヒンドゥー教神話の一般的設定では、シヴァ神は女神パールヴァティーとの間に、息子としてスカンダ（韋駄天）をもうけることになっているが、初期ヒンドゥー教文献でのスカンダの出生はきわめて複雑である。今学期は、スカンダの出生を詳しく物語る現存最初の文献である叙事詩『マハーバーラタ』第3巻の該当箇所を講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。語彙の習得と講読範囲の文脈を振り返ることを兼ねて、学期末に抜粋部分の和訳試験を行う。</p>				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験（講読した範囲からの抜粋の和訳）[50%]・(○) 授業での貢献度 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
イ ン ド 学 演 習	2	准教授 吉水清孝	6	火	1
◆ 講義題目	ヒンドゥー教神話文献講読				
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。既存の日本語訳がないものを取り上げるが、英訳を配布し批判的に検討する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヴィシュヌ神は様々な化身 (avatāra) の姿を取って、この世に現れる。今学期は『ヴィシュヌ・プラーナ』第3巻の中の、仏教の開祖ブッダとしての化身の章を読み、ヒンドゥー教が他宗教を包摂していくありかたについて理解を深めたい。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。語彙の習得と講読範囲の文脈を振り返ることを兼ねて、学期末に抜粋部分の和訳試験を行う。</p>				
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験（講読した範囲からの抜粋の和訳）[50%]・(○) 授業での貢献度 [50%]				
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					